

# ダウンロード違法化への意見、 及び出版界の海賊版対策について

日本書籍出版協会知財委員会幹事  
出版広報センター専門委員  
弁護士 村瀬 拓男

---

## 海賊版サイトの類型

### • 海賊版サイトの4類型

#### リーチサイト

違法コンテンツファイルはストレージサーバーに蔵置され、そこへのリンクのみを掲示

#### トレント

P2Pのファイル共有システム。個々の利用者が違法コンテンツファイルを蔵置

#### オンラインリーディング

海賊版運営者が自ら違法コンテンツファイルを送信

#### 動画投稿サイト

スライドショーに加工したものの投稿

# コミック以外の海賊版被害

雑誌，写真集や文芸書，専門書も対象に

昨年アクセスを集めた

「freebooks」

「ナナイチ」

などでは，文芸書や週刊誌をスキャンして  
ファイル化したデータが蔵置されていた。

削除要請などは，コミック以外は大規模削除事  
業の対象外であり，個社対応となっている。

---

## ダウンロード違法化について

- リーチサイト及びトレントは，ストレージ等からのダウンロードを伴う仕組み。
  - ストリーミングが中心となる映像や音楽とは異なり，出版コンテンツはダウンロードによる頒布が中心。
  - ダウンロードされた違法ファイルが，さらにストレージへのアップ，またはP2Pによって拡散されていく。
  - ダウンロード違法化による抑止は効果があると考えられる。

# 周知，普及啓発について

- A B J マークの導入  
出版界では、11月30日より、正規版をコンテ  
ンツ配信（日本電子書籍として）マージ協会のデジタルコミ  
ック協議会の共同事業として行われ（デジタ）

→「S T O P ! 海賊版」キャンペーン第3弾とし  
て、A B J マークの告知を先行の普及活動にあわせて法  
政の改正が行われた場合は、その周知も行っていくこと  
※同様のキャンペーンは、出版広報センターのとりま  
のツイートの8月1日より、及び9月28日に参加出版社